

## 『どこから来てどこへ行く?』 ヨハネの福音書 14章1~6節 2017.2.19(聖日礼拝説教より)

『イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』 ヨハネ14:6

人生は不可解!しかし神に渴いて問う人は必ず答えを聴く!弟子たち(ペテロ[13:36]、トマス[14:5])の問いへの答えに注目!

❶**どこへ向かうのか**…ペテロが「主よ。どこにおいでなるのですか?(13:36)」と問うと、『父の家に／場所を備えに／あなたがたを迎えるために』と答えるが、弟子たちにはわからなかった。何を信じるべきなのか(14:1)?第一に「天に場所が備えられること」。『場所(トポス)』とは「立場・身分」の意。人が贖いを信じた時、神の前に堂々と立ち、聖なる方に安心して甘えられる「神の子」の身分が与えられる!第二に、その場所を「わたしが」備え、「わたしが」迎え、「わたしが」道である!と言われるイエス様を信じること。イエス様こそ、天と地を結ぶ架け橋!その救いの道が最初に記されたのが創世記 28 章。『見よ一つのはしごが地に向けて立てられている…「わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り…決してあなたを捨てない」(28:12,15)』。その梯子のすぐ傍で主が語られた。人を騙し、大切な人を裏切り、誰からも見捨てられたと思っていた者の傍に神は立たれ、天につながる道を示された!人は本能的に聖なる神を知り、その御前に迎えられるにふさわしくないものをもってしていることを知る。しかし神は、滅びに転がり墮ちている私たちに、天から救難梯子を下ろされ、「救いの道」を開かれた!十字架のイエス様だけが、天に通じるたった一本の道!★あなたは、自分がどこから来て、どこに向かっているのかを知っている?堂々と生きて、安心して御前に立つために何が必要なのか?

❷**天国への道を備えるイエス様**…「道」はヘブル語で「デレフ」、その動詞は「ダーラブ(踏みつける)」。イエス様が私たちの罪の重荷に踏み付けられたのが十字架!そこに出来たのが救いの道!

★あなたは、自分の罪が主を踏みつけて出来た救いの道を信じて歩んでいるだろうか?

❸**永遠を目指して「今」を生きる**…天への道をまっすぐに生きたパウロの手紙。『私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました(Ⅱテモテ 4:7)』。神様は私たちも日々導かれる『あなたが右に行くにも左に行くにも、あなたの耳はうしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを聞く(イザヤ 30:21)』。迷い、失敗もし、道を踏み外すこともある人生。しかし「わたしが道!わたしにとどまり、わたしの言葉にとどまり!わたしの愛の中におれ!」と言われる方を見失わなければいい!天国に持っていけないものを捨て、今後も価値あることに夢中に生きたい!それは、互いが笑顔でいられること!つまり、互いに愛し合うこと!★誰もが笑顔でいられるために「今」あなたに出来ることがある?